



# 楓の誉

R5.3.23(第12号)  
文責: 瀨上 佳宏

## R5年度も「OODAループ」で

明日で令和四年度の教育課程も終了となります。この一年間、保護者や地域の皆様、学校関係者の方々には、本校教育に多大なご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

ところで、皆様は「PDCAサイクル」という言葉をご存知だと思います。Plan(計画)、Do(実行)、Check(測定・評価)、Action(対策・改善)の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようという概念で、学校教育においても、この概念を基礎に学校運営を行うよう、県教育委員会からご指導いただいているところです。

しかし、新型コロナウイルスが感染拡大してからというもの、このPDCAサイクルを十分に機能させることができなくなりまして。なぜなら、様々な行事や活動を計画しても、感染防止対策のため、その多くが延期や中止、規模縮小を余儀なくされたからです。計画通り実行してないのですから、その成果を妥当に測定・評価することができません。当然、対策・改善を図ろうとしても、エビデンス(根拠)に乏しいこととなります。

一方、これからの社会は「VUCA」の時代と言われています。VUCAとは、Volatility(変動性)・Uncertainty(不確実性)・Complexity(複雑性)・Ambiguity(曖昧性)からなる造語で、未来の予測が難しくなる状況のことを意味します。コロナ禍のこの三年間

はまさしくVUCAの状況だったと言えるかもしれません。

そのような中、新しいマネジメントの概念として「OODA(ウーダ)ループ」が注目を浴びるようになっていきます。OODAは、Observe(観察)・Orient(状況判断)・Decide(意思決定)・Act(実行)の頭文字をとっており、PDCAサイクルとは異なり、変化に強い戦略的な思考法と言われています。私(校長)自身、このOODAループという概念を知ったのは、今年度途中のある研修会ですが、振り返って考えてみると、本校は開校以来、またコロナ禍の中で、自然にこのOODAのループの発想で学校が動かしてきたように感じます。例えば、昨年度の分散登校時にオンライン授業をいち早く取り入れたことや、本年度から四十五分七時間を導入したことなどは、ただの思いつきではなく、まさしくOODAの過程を経っていました。それ故、A(実行)により、学力の向上を含めた数多くの成果と実績を残していくことができたと思っております。

おそらく令和五年度は、ポストコロナのステージに入ってきますし、社会や学校が正常化するれば、再びPDCAサイクルが重視されるようになってくることでしょう。ただし、個人として言えば、PDCAは中央集権的な感じがしてあまり好きになれません。特に詳細な計画作成を求めるPDCAは、現場を疲弊させるだけです。

もちろんグラウンドデザインレベルの大きな枠組みでのPDCAは大事にしたいと思っておりますが、本校では令和五年度も、OODAループの発想を活かした学校経営を継続していきたいと考えています。それぞれの時点で説明責任は尽くして参りますので、今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。

## 感動的な卒業式でした

三月三日、記念すべき「令和4年度合志市立合志楓の森中学校 第一回 卒業証書授与式」を挙行了しました。未だコロナ禍のため、制限がある中でしたが、本校では、保護者の皆様とともに、一・二年生も全員参列し、卒業生の門出を祝福することができました。

卒業証書授与は、時間制限がある中でも、校長から一人一人への手渡しができ、「おめでとう」と直接声をかけられて、とても嬉しく感じています。その後の校長式辞では、何回も感情が込み上げて、お恥ずかしい部分があったかもしれませんが、卒業生の門出に免じていただければ幸いです。

三年生は、前日の修了式でお願いしたとおり、「初代卒業生」としてのオーラを在校生に見せてくれました。三年生が造り上げた本校の歴史と伝統の第一歩は、必ずや在校生が引き継いでくれると信じています。

なお、卒業生九十三名の進路は、お陰様で全員確定することができました。競争率一倍を超えた高校を受験した生徒の中には、惜しくも第一希望が叶わなかった生徒もいますが、今後も、夢の実現に向けチャレンジを続けてくれるものと期待しております。

学校便り及び学校HPのご閲覧、誠にありがとうございます。更なる内容の充実に努めて参りますので、次年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。



全ての参加者の心に届いた「いのちの歌」



学校HPの  
QRコード